

## 2023 年度国際教養学部 FD 活動方針・活動計画

### 1. 2023 年度国際教養学部 FD 活動方針

昨年度は、2021 年度に改正した 3 つのポリシー、とりわけディプロマ・ポリシー（以下、DP）に対応した教育の達成度について、その評価方法を検討するため e-ポートフォリオ委員会を立ち上げた。その成果として、WebClass を通じて運用してきたポートフォリオを見直し、ディプロマ・ポリシーへの達成度が可視化できるルーブリックを策定するところまで行った。

以上の準備に基づいて、今年度は学年別に作成したルーブリックに基づいて実際にシステムを導入・運営を開始する。まずは評価そのものに関する内容やシステムの運営方法について教員が理解を深めると同時に、学生が自己評価を適切に行い、学びの経過を可視化するためには、どのような指導をどのタイミングで行えば効果が上がるか、について検討を行う。

また、2023 年度からは 3 年次演習が開講され、4 年次演習と並行した形で学生を指導することとなる。したがって、学部後半の 2 年間にわたる専門ゼミをどのように運営するか、さらに卒業論文の質向上のためには何が必要か、教員同士で知見を共有し、議論の場を設ける。

### 2. 2023 年度国際教養学部 FD 活動計画

上記方針に基づき、国際教養学部の DP に対応した教育の成果検討を継続・発展させるために、以下の活動に取り組んでいく計画である。

#### ① e-ポートフォリオの導入

WebClass を通じて学生が行った自己評価に基づいて、その実施状況や学生の反応、数値的なデータを共有する。次に、それに基づいてシステムや運営に関する改善課題、指導の工夫について議論する場を設ける。学生の自己評価は年 2 回（春・秋）実施する予定だが、まずは春学期（Q1・Q2）修了後に FD を実施したい。

#### ② 演習運営の情報共有

2023 年度から 3 年次専門ゼミを新設するに伴い、学生が選択した専門に関する知見が深まると想像される。したがって、2 年にわたる専門ゼミの運営・指導に新たな知見が必要となり、課題も出てくると予想される。できれば年度途中に、実際の運営がどのようなであったか、ゼミ生の反応や成果など全般にわたって情報を共有し合い、より良い指導への足掛かりとする。

#### ③ 学生の研究活動と卒業論文の質向上

卒業論文を国際教養学部のアーカイブとしてデジタル保存し、各ゼミから選出した優秀卒業論文を紙媒体として学部生に公開する体制を整えると共に、教員間で卒業論文の紹介や指導の方法について FD 活動を継続的に行ってきたが、2023 年度もこの活動を継続する。新しい課題として指摘された卒業論文の執筆要領についても FD の場で検討することとしたい。

以上